

## 第17回「保護者・教職員のための勉強会」（2013.5.18 実施）

### 質問へのお答え

1. アニメーション作品から学ぶというスタイルの講義だったこともあり、「日常生活で」「具体的」に保護者がどう子どもに関わったらよいかという質問が何人かの方からありました。私は保護者の「日常生活で」の「具体的」な思春期の子どもへの関わりに、虐待レベルの大間違えはあっても、絶対的な正解はないと考えています。ただ、保護者の心の「ゆとり」は大切だと考えています。「ゆとり」を失うと、自動的に作動する、決まり切った考え、行動、コミュニケーションしか取れなくなってきました。「具体的」に正しい子育てをしようと「ゆとり」を失う、あるいは、「具体的」な自分の関わりは間違っているのではないかという不安に圧倒されて「ゆとり」を失うよりは、少し「日常的な」現実から距離を置いて、「ゆとり」を持って、子どもの心の動きを眺めてみたら、子どもとの関わりに対する新しい見え方と意欲が生まれてくるのでは…。アニメーション作品を使う意図のひとつはそこにあります。

2. 上の質問と関連して、「カウンセリング以外に家でできること」についての質問がありました。最も大切なのは実際の死の危険から守ろうとすることだと思います。深く心を交わす他者との出会いや「象徴的な」死の体験は大切であるといったことを話しましたが、出会い系サイトなどを通じて出会った人とのトラブルで実際に命を失う子どももいますので、子ども達が保護者の守りを破って出て行くぎりぎりのところまでは、守ろうとすることだと思います。この点、今回見たアニメーション作品の主人公の女性の父親が、実際には娘を守れていなくても、守ろうとする態度を一貫して示していたのは学ぶべきところかもしれません。

3. 醜形恐怖症との関連で、「もし本人が平均以下の容姿だと自覚している場合にはどのようなことが起きるのか」という質問がありました。このことに関しては、「平均以下の容姿」ということを本人がどう受け止めて、どう受け入れているかということにかかっていると思います。本人が「容姿の良さ」に価値を置き、これにこだわり、コンプレックスを抱くならば、醜形恐怖症と同じことが起きると考えられます。今回は醜形恐怖症を例に取り上げましたが、客観的な容姿の良し悪しにかかわらず、他者の心との深い交わりを通じて、見にくい（本人の目には見えにくい）自分の魅力や価値を自覚するという心の課題は、多くの思春期の子どもに共通するのではないかと私は考えています。